

かずさの博物誌

ノスリ

～冬の代表的なタカ～

文・写真／成田篤彦

2015.3.20

冬の上総の台地

「ピヨ、ピヨ、ピヨ」と緊張感を帯びた鳴き声が聞こえた。

「オオタカ？いや違う。少し、低音だ。トビ？と思ったが、やや短く、甲高い。」と何の鳴き声か分からなかった。

二月末、水田脇の台地に沿った農道を走っている時であった。

カラス大の二羽の野鳥が目の前で飛んで、雑木林の松の木に飛び込んだ。

速く、しかも一瞬で、種類が分からない。飛びこんだ松林内を双眼鏡で丹念に探したが、見つからない。

突然、松から二羽の野鳥が上空に舞い上がった。ずんぐりとした体形、淡い褐色の腹、中央に暗褐色の帯、



©成田篤彦

▲ノスリのなわばり争い？ =2015年2月27日 木更津市

いつもこの地に同じノスリが一羽だけいる。そこに、新たにノスリが侵入してきたので、冬のえさ場を守るために追い出したのだろうか？だが、脚を前に出して、攻撃するなどの険悪な様子はなかった。

さて、毎年、台地斜面の葉を落したコナラの枝や湿地や水田の電信柱に止まっていたり、上空を旋回する姿を見る。四月には羽が生え換わる途中のノスリを観察したこともある。

今冬は、例年になく、ノスリをよく見かけた。特に、台地の大きな谷津田にはそれぞれ一羽のノスリがたい



©成田篤彦

▲雑木林に止まるノスリ=2015年3月3日 木更津市

つばさの羽先が黒、尾が扇形。

ノスリだ。上空で互いに絡むようにして飛び、一羽が盛んに「ピヨ、ピヨ、ピヨ」と鳴いた。先ほど聞いた鳴き声と同じだ。

ノスリはよく鳴くタカだというのが初めて鳴き声を聞いた。また、この周辺で二羽、同時に見るのも初めてだ。

ノスリは三月上旬から雄と雌の求愛行動やなわばり行動が見られるそうだが、上総の平地や台地では今まで夏に見たことが無いし、繁殖の形跡はない。

翌日もこの場所で二羽、共にいれば夫婦か？と思ったが、残念だが一羽しかいなかった。

いつもこの地に同じノスリが一羽だけいる。そこに、新たにノスリが侵入してきたので、冬のえさ場を守るために追い出したのだろうか？だが、脚を前に出して、攻撃するなどの険悪な様子はなかった。

てい観察された。

オオタカもいるが、ノスリの数が圧倒的に多く、冬の上総の代表的なタカだと言う。

ノスリは、野鳥愛好家にはタカの仲間にかかわらず、今一つ人気が無い。だが、ノスリは野ネズミをよく食べる。生きた農薬でもある。また、カモの死骸なども食べる。トビほどではないが、自然の掃除屋の役割もしている。

夏も観察され、繁殖している可能性がある。

上総でも繁殖するようになれば喜ばしいと思っている。

▲飛ぶノスリⅡ〇三年十月十日 木更津市



©成田篤彦

memo

ノスリ

タカ目タカ科

全長五十一～五十九センチ。ユーラシアの温帯・亜寒帯地域などで繁殖。冬季、アフリカ、南アジアにわたる。北海道から四国で繁殖。丘陵地や低山の林、農耕地、草地に生息。上総の台地や平地では九月下旬～四月上旬頃まで見られる。